

第一回足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録

会 議 名	第一回足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
開催年月日	平成 27 年 3 月 16 日 ( 月 )		
開催場所	こども未来創造館 2 階 わーくしょっぷスタジオ		
開催時間	13 時 30 分開会 ~ 16 時 00 分閉会		
出欠状況	委員現在数	9 名	
	出席委員数	8 名	
出席者(敬称略)	出席	委員長	平澤 茂 (文教大学名誉教授)
		委員	吉井 謙 (東京大学教授)
	欠席	委員	山田 心 (認定 NPO 法人 日本グッド・トイ委員会法人運営部長・東京おもちゃ美術館員)
		委員	伊東 正示 (東京理科大学非常勤講師 株式会社シアターワークショップ代表取締役)
		委員	鈴木 春男 (足立区少年団体連合協議会副会長)
		委員	青木 信夫 (前足立区小学校 P T A 連合会会長)
		委員	稲塚 由美子 (ミステリー評論家・翻訳家・現在足立区民生児童委員)
		委員	染谷 江里 (一般公募)
		委員	坂田 卓也 (一般公募)
事務局	子ども家庭部	部長	三橋 雄彦
	子ども家庭部青少年課	課長	寺島 光大
	青少年課ギャラクシティ支援担当	係長	鈴木 史敏
	青少年課ギャラクシティ支援担当		上野 兼司
	青少年課ギャラクシティ支援担当		照屋 良太
	青少年課青少年教育担当	係長	村上 長彦
	地域のちから推進部地域文化課	課長	松野 美幸
	地域文化課文化団体支援係	係長	古川 裕子
	地域文化課文化団体支援係		脇本 祥子
	指定管理者	館長	
副館長			俣田 浩昌
副館長			上遠野 めぐみ
広報チーフ			三原 憲治

<p>会 議 次 第</p>	<p>1. 開会  2. 資料確認  3. 委員長挨拶  4. 指定管理者へのヒアリング  5. 次回の審議内容と日程確認</p>
<p>配布資料</p>	<p>資料1 次第  資料2 平成25年度ギャラクシティ運営評価委員会評価に対する取り組み状況  資料3 平成26年度(4～11月分)ギャラクシティ運営評価調書  資料4 平成26年度(4～11月分)施設運営統計資料  資料5 平成26年度ギャラクシティリサーチ報告書  資料6 ギャラクシティサイン変更箇所写真  資料7 ギャラクシティ作成チラシ</p>

寺島課長	<p>&lt; 1 . 開会 &gt;</p> <p>ただ今より、第一回ギャラクシティ運営評価委員会を始めさせていただきたい。まず、お手元の配布資料の確認をさせていただく。</p> <p>&lt; 2 . 各自資料確認 &gt;</p> <p>( 傍聴人入場 )</p> <p>&lt; 3 . 委員長挨拶 &gt;</p>
三橋部長	<p>ギャラクシティの指定管理期間は5年間であり、来年度はその中間年になる。26年度下半期によりよい運営となるよう、ご意見を頂戴したい。</p> <p>&lt; 4 . 指定管理者へヒアリング &gt;</p>
平澤委員長	<p>それでは、これより指定管理者へのヒアリングを行いたい。今回は大きく分けて5つの中身に分かれているので、まず平成25年度ギャラクシティ運営評価委員会評価に対する取り組み状況からご報告をいただきたい。</p>
黒川館長	<p>前回の評価委員会での指摘にもあった、管理運営では待遇、人材育成について、子ども体験事業ではプログラムについて、まるちたいけんドーム活用事業については具体的な取り組みについて、ご説明させていただく。また、管理運営体制についての変革については、組織の改革が一番重要なのではないかと考えている。管理運営体制を抜本的に見直すことで、一部のセクションの変更を行っている。管理運営体制の組織体系の抜本的な改革として、組織内での合理的な意思決定の見直しを行い、迅速化を図った。続いて待遇、サービスについて、初年度サービス力が十分とは言えない状況であった。昨年の夏から秋にかけて、お客様への声かけ運動や笑顔月間を実施した。また、外部講師による複数回の待遇訓練や研修を行った。さらに、今年の2月には外部の覆面調査員によるスタッフの待遇診断を実施し、一定程度の評価をいただいた。また、丹青社本社によるマネージメント研修や、マーケティング研修などを行った。また、館内サインについては、初年度一部お客様に対してわかりづらいところがあり見直しを行った。</p>
平澤委員長	<p>それでは項目別に発表してもらうことにして、ここまでの説明でご意見があればお願いしたい。</p>
稲塚委員	<p>障がい者に対するサービスの取り組みの向上として、電話での問合せがあった場合などの対応をHP等に記載しているのか。</p>
黒川館長	<p>ギャラクシティには3名のサービス介助士がこの3月から揃う状況となり、一定程度サービ</p>

	<p>ス介助手が施設内に常駐している状況になった段階で、HPや館内の総合デスクにサービス介助手が常駐している表示をHP等で実施していきたい。</p>
伊東委員	<p>今お話しいただいたのは、管理運営体制で、指定管理者の方の組織の改革が主な話しだったが、お客様にとってみれば指定管理者のチームだけではなく、館側のスタッフはその他大勢の方が関わっていると思うが、館内の全てのスタッフが研修を受けているのか。</p>
黒川館長	<p>先ほどお話しさせていただいたのは、館全体のスタッフの話しをさせていただいた。一部の研修においては、各部門長ということもあるが、それ以外は、パートスタッフやアルバイトスタッフを含めて、全スタッフが研修を受けている。</p>
山田委員	<p>館内サインの件について、改善された部分を拝見し、予想以上にきれいに出来ていると感じた。それから、研修会を実施した中で、効果を感じられたものはあるか。</p>
黒川館長	<p>一つには、一番力を入れたのは接遇である。朝礼や終礼などで、今月は笑顔月間にするなど、テーマを決めた。その中で、スタッフのプロ意識が上がったのを感じた。そう感じるの、スタッフから公共サービスとはどういうものなのか、公共施設の接遇とはどういうものなのかといった声があがってきている。もう一つには、言葉遣いや服装などはもちろん、スタッフからは早くお客様をご案内していくことも、サービスとしてあるのではないかとの声も上がっている。</p> <p>(子ども体験事業)</p>
黒川館長	<p>それでは次に、子ども体験事業について、評価委員会でもご指摘のあった、プログラム内容の質的向上と、外部連携の効果の2点について、お話をさせていただく。代表的なもので、科学で遊ぼう連続性講座は、毎回テーマを決めてわかりやすく学校とは違う切り口で展開している。また、うごくブロックくらぶについては、レゴを使い夏にはおみこしを作っている。4月以降には、スペシャルコースも新設する。その他、ダブルタッチ体験教室については、夏にショーを実施したところ、お客様から大好評をいただき、思い切って体験教室を実施してみたところ、非常にご好評をいただいている。最初はイベントショーとして実施したものが、それが好評であると体験教室として実施する形になった取り組みである。続いて連携事業について、都市農業公園や生物園などとの連携や、合わせて今まで弱かった大学連携について、集中的に取り組んだ。特に東京電機大学との事業で、電大ガールとして、9月にLEDで基盤作りのワークショップを実施した。その中で、火傷をしてしまうなどの反省点もあった。その他、帝京科学大学とは紅白まんじゅう作り、日本女子体育大学とは運動テスト、東京未来大学からは50名前後の学生がボランティアとして参加していただいているおかげで、年間3500回ものワークショップが実施できている。また、企業連携についても活発に行っている。自治体からの視察もさることながら、企業からも一緒にできないかと提案を受けている。一例としては、SMBコンシューマーファイナンスと紙の貯金箱を作るワークショップを実施し、おもちゃのお金を作り、買い物ゲームを実施した。</p>

俣田副館長	<p>企業と連携する際には、最終的にはその場で商品を販売したいという申し出がかなり多い。広告としての企業、パネル展示もあるが、最終的には営利でその場を体験してもらい、物を売ることが一番わかりやすい方法だが、ギャラクシティは公共施設であり、売るということはさせていない。あくまでも事業の一環として、企業ブランドを伝えていただくことに重点を置いてもらっている。</p>
吉井委員	<p>企業として、CSRとしてやるにしても、全く関係ないことでCSRに来ることはないと思う。子ども体験事業や食育など、多少の関連性があることで、各企業が参加した方が良いという風な認識が広まっていくことが重要である。企業としては、ギャラクシティにおいて実施するにあたっての収益はさほど期待していないと思う。企業からのアプローチがあった時に、柔軟に対応することで、今後の展開に繋がっていくと思う。</p>
伊東委員	<p>ボランティアの方や、学生について、その方たちの保険や、先ほど火傷の話があったが、そういった場合の責任の取り方についてはどうなっているのか。</p>
黒川館長	<p>ボランティアに関しては、ボランティア保険に加入している。アウトリーチなどで怪我が発生した場合は、館内の保険では適用できないので、別途加入している。</p>
吉井委員	<p>大学連携に関して、大学と協定を結んで事業を行っているのか。または、完全にボランティアという形で参加してもらっているのか。</p>
黒川館長	<p>あくまで、大学側に協力しをいただく形で参加してもらっている。</p>
稲塚委員	<p>ボランティアに関して、年齢構成はどうなっているか。</p>
黒川館長	<p>若い方が多くなっている。一番多いのは20代で、その次が10代、そして60代と続いている。</p>
坂田委員	<p>若い方が集まる工夫はされているのか。</p>
黒川館長	<p>地域の特性もあると思うが、都区内ということで、アクセスが良いこともあるのではないかと。</p>
平澤委員長	<p>10代の方というのは、どういう特性か。</p>
俣田副館長	<p>最近、就職を控えている学生の方で、学校では足りなかったコミュニケーション能力を高めることや、子どもとの接し方を学ぶための準備をするために来られる方もいる。</p>
黒川館長	<p>ギャラクシティのボランティアは、定例会や交流会、研修会も行っている。</p>
稲塚委員	<p>企業インターンなどと同じように、ギャラクシティでボランティアをすると、社会に出るための力が身に付くといったような感じができつつあるように感じている。</p>

山田委員	<p>様々なプログラムを組んでいて、大学や学生との調整が大変な中で、これだけ企画が生まれるのは素晴らしいことだと思う。ボランティアの方や学生が作る、遊びに来る子どもたちへの自主的な企画についてはどう考えているのか。</p>
黒川館長	<p>ボランティア、とりわけ学生については、未就学児や小学生にとって、大学生はめずらしく新鮮な感覚である。子どもたちも頑張って大学生になろうとか、親近感を覚えている。また、学生が企画したワークショップについては、自らが主体となって行っている。しかし、不慣れなゆえに失敗もあるが、そこについてはスタッフがサポートしている。</p>
吉井委員	<p>連続講座について、一回の人数が多いというのを資料で確認し、素晴らしいと思った。新しい事業を様々行い、しかもかなりの大規模な形で足立区のサポートを受けながらやっている。その中で、大学や高校との連携について、組織立てをどう考えているのか。小中学校や高校で学べないカリキュラムをここで学ぶというのを前面に出すと、各学校とのあつれきが生じるような気がするが、その辺りはどう考えているか。</p>
黒川館長	<p>私たちが意識しているのは、学校のカリキュラムに対してではなく、切り口を変えて、まずは子どもたちに興味、驚き、感動などを遊びの中でも構わないので、感じ取ってほしい。そこから、学習にステップアップしていけるきっかけになるのではないかと考えている。身近な興味を引くところから入ると、子どもたちの心に残るのではないかと感じ、そこを意識して日々のプログラムに取り組んでいる。</p>
吉井委員	<p>ギャラクシティが考えている思いを、小中学校や高校の先生と共有できるような形にやがてなると良い。目標は同じなので、違うことを違うアプローチでやっていることを、お互いに理解できるようになると良い。</p>
平澤委員長	<p>学校のカリキュラムに連動はするが、そのものではない。そこが重要である。大学の入試についても、今の小学生たちが受験する頃には、入試制度が大きく変わることも考えられる。そうなった時に、ギャラクシティでの体験が大切な経験となるので、非常に重要なことをされていると思う。ぜひ、今の切り口を発展させていただきたい。</p> <p>(まるちたいけんドーム活用事業)</p>
黒川館長	<p>次に、まるちたいけんドーム活用事業についてご説明させていただく。区でアドバイザー会議を開催していただき、その中で、先生からサンタクロースの企画をいただいた。また、東京大学の大学院教育研究センターにも協力をいただき、木曽の天文台に1泊2日で行く事業を行った。その中で、子どもたちは講演や実験を体験する中で、理系に興味を抱く貴重な機会となっている。また、アウトリーチの積極的な展開や、ミニプラネタリウムを学校で開催している。他にも人気のあるものとして、大人のミニコンサートを実施している。また、はやぶさ2の打ち上げライブをやったり、ハワイ観測、日本全国の大型映像番組を供給する会社が集まり、次年度の大型映像番組を評価するイベントを開催し、成功を収めた。</p>

平澤委員長	昨年に比べて、様々な積極的な試みが展開できているという印象を強く持ったが、何か変わった点はあるか。
黒川館長	昨年度の評価委員会での指摘を受け、全スタッフで話し合いを持ち、検討を重ねて、まずはアクションを起こすことから始めた。
吉井委員	昨年は区側の評価が非常に厳しかったように思うが、今年は解消されたと思えば良いか。
黒川館長	早い機会に成果が出た一つとして、区の指導、協力があったこともある。ただ、5年間の指定管理期間の中で、初年度とそれ以降では要求水準が違うはずであり、事前にある程度明確に示していただけると、さらに前向きに取り組める。
伊東委員	新しいプログラムを色々展開していて、魅力的なことはよくわかったが、元々はアタカマ天文台と繋がっていて、その映像を流すのがメインだったと思うが、その点についてはどうか。
黒川館長	昨年の11月にアタカマデーを実施し、大型映像番組で「遙かなる銀河へ TAO 計画が迫る最新宇宙」を紹介した。現在でも投影番組に取り組み、アタカマ天文台の映像をドームで紹介している。
稲塚委員	アタカマからの同時映像を投影するにあたり、以前は回線トラブルなどが起こり見えないことがあったと思うが、現在はどうなっているか。
黒川館長	事務所内のモニタでアタカマの映像を観察し、確認を行っているので、現在は問題はない。
稲塚委員	まるちたいけんドーム内にある栈敷席はやはり人気なのか。
黒川館長	人気席である。席の確保が必要な状況になっている。また、まるちたいけんドームは集客が伸びており、前年度比120%弱である。11月末時点で、館の目標に対して122%の利用者増である。その一因として、区外からの利用者増が上げられる。
鈴木委員	まるちたいけんドームは特殊な構造もあり、音響効果もある。本来の目的であるアカデミックな方で集客がいっぱいになっていけば心配はないが、必ずしもそうとはなっていない状況の中で、今後多目的に使用していくことも考えているのか。
黒川館長	名前が示すように、今後もまるちに活用していきたいと考えている。プラネタリウムである以上、星空、天体、天文、宇宙は大切にしていきたい。今後、より多くの方に来ていただくための活用を行っていければ、プラネタリウムをより効果的に使っていくことができるはずである。
平澤委員長	(文化事業) では次に、文化事業についてご説明していただく。

上遠野副館長	<p>前回の評価委員会において、広報手段が弱いために、集客が今ひとつ伸びない公演があるのではないかとの指摘を受けた。そこで、公演ごとにお客様からアンケートを取り、結果を分析したところ、やはり魅力的な情報発信が出来ていないことがわかった。そこで、区のHPやSNSにも協力をいただいたり、また全戸配布されている、あだち広報にて随時情報発信し、多くのお客様に伝達することに努めている。現在までではあるが、集客は昨年より上がっており、今年度末には約75%の入来場者数となる見込みである。昨年度が71%であったので、少しずつではあるが、成果が上がってきている。また、区民参加型の事業についても、もう少し積極的に取り組んだ方が良くはないかとの指摘を受けた。西新井文化ホールにあるピアノを使用する区民を一般公募し、弾いていただくピアノマラソンコンサートを実施した。他にも手軽に参加できる企画として、文化ホールロビーでのコンサートや、ミニコンサートを実施し、区民や区内の多くの方に参加していただき、発表の場として提供することができた。また、毎年9月に足立区音楽祭をやっているが、出演者やスタッフから毎年メンバーが同じであることや、観客が少なくなっているとの声があり、貸室の利用者に声かけをするなどして、今年度は新たな団体が2団体参加をいただいた。ギャラクシティは、こども未来創造館と西新井文化ホールが一緒になってのものではないかとの指摘を常々受けているが、事業のスケジュール調整がなかなかつかず、課題が残っている。そうした中でも、春休みや夏休みなどは、一緒にイベントを実施するようにしている。今年は、夏休みに夏フェスとハワイウィークを館全体を挙げて実施し、その中でワークショップや公演、ミニコンサートを実施した。徐々にではあるが、ギャラクシティが一体感を持って事業展開できるように進めていきたい。</p>
平澤委員長	<p>それでは、文化事業についてご質問があればお願いしたい。</p>
伊東委員	<p>一つには、お客様の声を聞きながら事業を組んでいく方向性は正しいと思うが、実際に集まった方からアンケートを取ると、どうしても同じ傾向になってしまう。それぞれの事業に参加した方は、その分野において事業をやってほしいと考えるので、そうではない方の声をいかに拾うかがポイントになってくる。それには区側のサポートが重要だと書かれており、まさにその通りだと思うので、区の担当者との関係性はどうなっているのか。また、もう一つに、ホールの場合、365日自主事業をやっているわけではなくて、基本は貸館なのではないかと思う。その貸館の稼働率はどうなっているのか。また貸し出しをする時に、館側がどのようなサポートをしているのか。</p>
上遠野副館長	<p>まず、区との協力体制については、実際に事業を見ていただき、率直な意見をいただいたり、月に一度区とのミーティングがあり、報告と意見交換の場を設けて、その内容を事業に反映させている。もう一つの貸館については、高い稼働率である。平均して85.1%の稼働率である。西新井文化ホールの特性として、客席やロビーを使わずに、ホールだけの使用だと少し減額されるといった独自の仕組みも影響しているのではないかと考えている。また、貸し出しを行う時のサポートとしては、積極的に誘導の案内や舞台の作り込みなどの手配を行っている。</p>
平澤委員長	<p>自主公演と貸館の比率はどうなっているか。</p>

上遠野副館長	非常に高い利用率を誇っているのは、貸館の方である。
稲塚委員	落語や能狂言などの伝統芸能については、ギャラクシティで見せたいというコンセプトがあつてのことなのか。
上遠野副館長	能狂言については、西新井文化ホールに立派な能舞台があり、普段なかなか見ることのないものを、身近な公共施設で実施したいとの考えから行った。また、落語についても、身近に感じる伝統文化として見てもらいたいとの思いから実施している。
伊東委員	どういふプログラムをやり、独自性を出していくか、館としての方針が必要なのではないかと思う。西新井文化ホールは集客で費用のかかる公演を様々やっており、なおかつ予算も限られた中で、自主的にやろうと思うと展開しづらいところがあると思う。なので、区としてどういふ文化事業を発掘していくのか、そういった展望がないと、都内でどこでもやっている事業の一つになってしまう。区として、文化事業でやっていきたい形を持ち、しっかりとした方向性を示すことが必要である。
黒川館長	文化事業を運営していく上で、きちんとした理念を持って、ギャラクシティとしての独自性を持って行っていきたい。
伊東委員	西新井文化ホールは稼働率が非常に高く、稼働率が低ければ自主事業を入れやすいが、既に稼働している状態では、自主事業を入れようとするとう重なってしまう。独自性が出ることによって、区全体としてはプラスであるが、実際の利用者にとってはマイナスになってしまう。この問題については、指定管理者で解決していくことは難しく、区側で判断してもらわないと、手が打てないのではないかと思う。どこの団体でも、練習場所が不足しており、作品を作り込むことはしたいが場所がないといった現状がある。なので、一週間か二週間文化ホールを使ってもらい、ギャラクシティから全国ツアーを展開してもらうことができると、特色が出せ、足立区の宣伝にもなるのではないかと思う。
	(広報事業)
平澤委員長	では最後に、広報についてお願いしたい。
三原チーフ	広報事業について、昨年があまり振るわなかったこともあり、昨年の四半期から積極的に展開している。特に4月から11月までの間、プレスリリースに関しては合計で42本、月平均にすると5.25本配信している。また、メディアへ直接訪問し、リリースを持ち込んだり、施設のパンフレットを持ち込むなどして、施設のPRに努めてきた。その他の情報発信として、その都度イベント情報をWEBで発信するとともに、これからどういふ事業を展開していくかということ、フェイスブックやツイッターなどで配信した。11月までの状況として、新聞、テレビ、雑誌、WEBで、1164件記事として取り上げていただいた。特筆すべきは、雑誌に関しては、親子向けやお出かけ雑誌に直接アプローチすることで、記事に取り上げてもらうきっかけを作ることができた。また、春休みや夏休みなどの特集掲載が

	<p>ある時には、施設の紹介として取り上げていただいた。その他にも、科学専門雑誌や天文ガイド、ローカルのフリーペーパーにも掲載してもらった。また、広報からの視点での企業連携として、企業と写真教室を共催するなどして、メディアと直接イベントを共催することによって、事業告知と事業報告という形で、雑誌に取り上げてもらうことができた。その他にも、まるちたいけんドームで読み語りイベントを企業と開催し、その後未就学児向けのプラネタリウム番組を流すことによって、平日の午前中の比較的空いている時間帯の集客にも繋げることができた。このような形で、まるちたいけんドームで企業との連携による共催イベントは定着化しつつある。企業との連携によって、ギャラクシティの知名度を上げることに繋がっていくものと考えている。</p>
平澤委員長	<p>それでは、広報事業についてご質問のある方はお願いしたい。</p>
坂田委員	<p>入場者数をみると、平成26年6月から上がっているが、その理由は何か。</p>
黒川館長	<p>一つには、区外からの利用者が増えているのがある。</p>
坂田委員	<p>それは、あえて6月にマーケティングを行ったのか。</p>
黒川館長	<p>昨年の6月から7月にかけて、きちんとした広報事業の体制を組み、HP等で積極的に情報発信を行った効果が出ている。</p>
俣田副館長	<p>昨年の4月からチーフが変更になり、そこから広報事業の仕掛けを行ったため、6月辺りから広報事業の回数が増え、内容の充実を図り、ターゲットに対しての広報戦略がフィットしてきたことが大きい。</p>
坂田委員	<p>オープン当初は来館者が多いが、その後リピーターを増やすことが課題だと思うが、資料を見ると、初めて来館した人の割合と、リピーターの割合がほぼ半分である。これが2年目の公共施設における割合で、想定通りであるのか。</p>
黒川館長	<p>想定をはるかに超えている数である。</p>
坂田委員	<p>リピーターの数が多いということか。</p>
黒川館長	<p>そうである。さらには、区外からの集客が伸びてきている。</p>
坂田委員	<p>リピートを狙っている活動が、功を奏しているということか。</p>
黒川館長	<p>そのように考える。第1回の評価委員会において、プログラムを進化、拡充させていくべきであるとの指摘を受け、それを実行していった結果、リピートに繋がっているのではないかと感じている。</p>

稲塚委員	チラシに関して、非常に細かくやっている印象を受けた。ギャラクシティニュースに関して、見やすくなっていると感じた。ギャラクシティの今後の発展に繋がることなので、地道な活動を継続していくことが、大切なのではないかと思う。
吉井委員	ギャラクシティに興味を持っていただき、一定の来館者があるのは、広報の結果が出たことだと思うので評価したい。様々な方に来てもらうために、様々なメディアを使って広報を行っているが、将来的にどのエリアをターゲットにしようと考えているのか。周辺地域に方に来てもらうのも良いが、ギャラクシティは全国的にみても公共施設としての評価が高く、様々なところから視察に来ており、全国的に事業の試みが伝わるような戦略を計画しているのか。
三原チーフ	中長期計画の中で、2年目は足立区内と近隣地域をターゲットにし、5年目では教育専門誌などを通じた全国展開を考えている。しかし、広報事業が効果的に表れているため、前倒しの計画になってきている。教育専門誌についても、少しずつではあるが既に取り上げられている。5年目と考えていたことを、4年目ぐらいから実施し、全国展開でのアプローチが可能ではないかと考えている。
平澤委員長	<p>この先の展望が重要な課題であり、長期的に何をしていくのかが非常に重要である。まだご意見はあるかと思うが、今後、評価に向けて委員会があるので、その折に感想も含めてご意見をいただきたいと思う。それでは、本日の議題はこれにて終了とさせていただきます。</p> <p>&lt; 5 . 次回の審議内容と日程確認 &gt;</p>
寺島課長	次回の評価委員会は、5月下旬を予定している。次回は、12月から3月までの事業が対象となる。その後、評価書の取りまとめの流れになるので、よろしく願いたい。